

# 百万貫岩を転がした土石流

石川県自然解説員研究会 山下 光信

白山に登山する時、手取川沿いに白峰から市瀬方面に向けて車を走らせると、突然左手に巨岩“百万貫岩”が見えてきます。昭和9年7月の大洪水の際、支流の宮谷川から土石流で押し流されたといわれていますが、高さ15m・幅23mもあり平成7年の計測によると、重さは4839t（129万貫）もあったそうです。誰が付けたのか、ピッタリの名前だと思います。その巨岩を動かした雨はどんな大雨だったのか。また、今後再び転がることあるのか考えてみました。

災害の資料では、“昭和9年7月10日～11日（手取川大洪水）、梅雨前線の活動が活発となり、北陸各地は、記録的な豪雨となった。本県の山岳地方白峰を中心として降雨が集中し、春多雪のため融水も出水に加わり（大雪のため昭和9年3月10日に尾口村尾添と吉野谷村中宮間のねんぐ橋が落下、尾口村では11棟が倒壊している）手取川が大氾濫となり、県下各河川の出水もあって大被害が発生した。県内では、この水害で死者91人、行方不明18人、流された住宅は240戸”と記載されています。

各地の降水量は、表-1のとおりとなっており、加賀の山沿いで合計350mm以上の大雨となっています。特に、白峰では484mm、7月10日一日の降水量は352mmとなっており、県内では一番多くなっています。この時、金沢では合計117mmとなっていました。この雨が、どの程度の豪雨なのか直ぐには判断出来ませんが、1mmの降水量とはたたみ1畳に一升瓶1本分の水を撒いたくらいなので（ $90 \times 180 \times 0.1 = 1620\text{cc}$ ：概ね1.8L）、白峰では1畳に一升瓶の水を500本近く撒いたこととなります。私は、この大洪水が石川県の大正以降一番大きな災害だと思います。

表-1 各地の降水量（単位:mm）

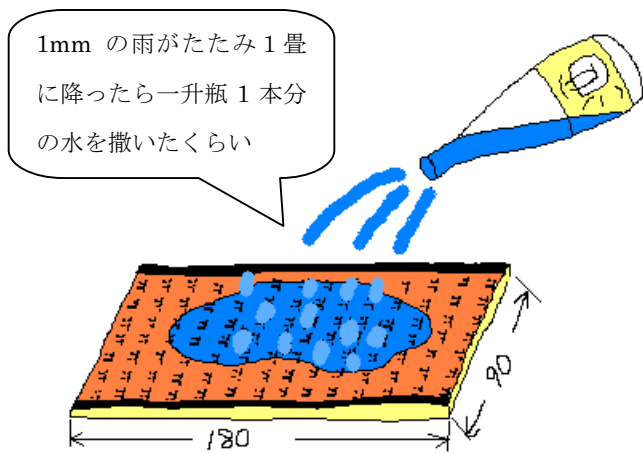
地名	9日	10日	11日	合計
大杉	11	311	84	406
新保	21	322	75	418
白峰	18	352	114	484
中宮	6	223	121	350
内尾	20	149	180	349
女原	9	276	183	468
二又	24	142	182	348

表-2 日降水量と近年の大雨（単位:mm）

	順位	地名	降水量	年月日	備考
大雨 ランキング	1	日 早(徳島)	1114.0	S.51. 9.11	台風と前線
	2	西 郷(長崎)	1109.2	S.32. 7.25	諫早豪雨
	3	大台ヶ原山(奈良)	1011.0	T.12. 9.14	台風
近年の 大雨		名古屋(愛知)	428.0	H.12. 9.11	東海豪雨
		新 潟(新潟)	265.0	H.10. 8. 4	新潟豪雨
金沢の観測値の最大			234.4	S.39. 7.18	梅雨前線

表-2の大雨ランキング(全国)を見ると、上にはうえがあるものとびっくりします。また、近年の大雨でも金沢の今までの観測値の最大より多くなっています。これらの豪雨のデータから見ると、北陸の大雨は地形の影響で南から暖かく湿った空気が入りにくく、九州や太平洋側に比べ降水量が少ないと考えられますが、私は今後も昭和

9年7月10日に降った程度の雨  
(白峰: 352mm) なら石川県で  
降ると思います。



$90 \times 180 \times 0.1 = 1620\text{cc}$  およそ一升瓶1本